

# 『官話指南』における依頼表現

三木 夏華

## 0. はじめに

『官話指南』（以下『指南』とする）は1882年に清国公使館の通訳者、呉啓太・鄭永邦により出版された日本最初の北京官話教科書である<sup>1</sup>。外交官が清国に赴任した際に役立つ内容を中心に編纂されており、本文は巻之一「應對須知」、巻之二「官商吐屬」、巻之三「使令通話」、巻之四「官話問答」の四巻からなる。この中で「官商吐屬」は官吏、商人による商談、「使令通話」では主人と使用人のやり取り、「官話問答」では日本公使館の通訳者と清国の要人との外交交渉が中心的題材となり、当然のことながら登場人物や内容により会話の中で用いられる表現は大きく異なる。しかしこれまで『指南』の言語について語用論的なアプローチを試みた論考は管見の限り見当たらなかった。本稿では『指南』における依頼場面の言語行動に着目し、語用論的な観点から考察を行いたい。

## 1. 依頼発話と依頼談話

まず、依頼の定義については王志英（2005）を参照する。王志英（2005,15-24）は「話し手が聞き手に何らかの行動を取ることを要求する」ことを「行動要求表現」と名付け、成立条件を「a)話し手は聞き手が依頼された行為を実行する能力を持つと信じる」、「b)依頼される行為は聞き手にとって自制可能なものである」と定めた。その上で「行動要求表現」を「命令文」「依頼文」「勧め文」の三種に分類し、各項目の定義、成立条件などを定めたが、「依頼文」については以下の様に説明している。

「依頼文」の定義：聞き手が話し手より力関係が優勢である時、話し手が聞き手にある行為をしようと望む「行動要求表現」を「依頼文」とする。

成立条件：

- a)話し手が聞き手にある行為をさせる権限と権利を持っていない。
- b)話し手が聞き手に断る可能性、選択する余地を与える。
- c)聞き手が行為を実行する義務を持っていない。

利益関係：

- a)基本的に話し手の利益になる。
- b)聞き手の利益になる場合もあるが、それは話し手の責任感が問われる時である。

（「勧め依頼文」）<sup>2</sup>

---

<sup>1</sup> 氷野（2010,237-238）

<sup>2</sup> 「勧め依頼文」は、要求の実現により話し手の責任が全うされると共に聞き手の利益にもなり、「勧め文」と見なすことも可能なため、本稿では分析対象外とする。

本稿では『指南』において以上の条件を満たす行為要求表現を「依頼」とし、端的に依頼の内容を表明する単体の発話を「依頼発話」とする。まず2章では「依頼発話」の用例を収集し、依頼者、被依頼者の社会的属性や要求行為の負荷度が表現形式の選択に与えた影響について考察する。次に3章では考察範囲を「依頼談話」へと広げ、依頼場面に展開される言説の分析を行うが、それに先立ち「談話」の定義を確認しておく。宇佐美（2019,195）は「談話」を以下の様に説明する。

「談話 (discourse)」の定義は、厳密には各研究者によって異なる面もあるが、大きくは狭義と広義の二つの捉え方に分けることができる。古典的 (1960 年代) には、狭義のものは、「談話とは、文レベルを超えた意味的まとまりをもった言語的単位」であるという、あくまで言語を中心にした捉え方が中心で、それにかかわる研究は、あくまで言語学の一分野として、「談話分析 (discourse analysis)」と呼ばれることが多かった。このタイプの研究は、文字通り、文レベルを超えた、一文ではない二、三の文が、「意味的まとまり」を持つ「談話」として結束性を保つために、どのような言語的装置 (linguistic device) が使われているか (前の文の主語を次の文が代名詞で受ける等) と、その規則を明らかにしようとするのが主目的であった。そのため、主に、書き言葉を対象としており、1970 年代初頭までは、文レベルの言語学で有効とされてきた方法を談話にも適用して、「適格性、不適格性の判断」を直観に基づいて行うという研究方法が取られることが多かった...一方、二、三の文の集まりとしての談話という狭義のものも含むが、むしろ、「談話」の広義の捉え方とは、もっと長いものを主に意味し、話し言葉では「会話 (conversation)」、書き言葉では「テキスト (text)」などと呼ばれることが多い。

また趙宏杰 (2014,13) は依頼にかかわる「談話」を以下の様に定義している。

「依頼談話」： 依頼という目的を持つ者とそれに対して返答する目的を持つもう一方の者が、ある依頼用件を話題に、互いに働きかけながら各自の目的の達成に向けて作り上げる一連の言語行為のまとまり。

本稿における「依頼談話」とは基本的に趙宏杰 (2014) の定義に従い、スキットの依頼に係る話題の一連の文のまとまりを指す。また考察の対象は依頼のやりとりの開始部から「依頼発話」までの依頼者のみの発話のみに着目し、被依頼者の発話は対象外とする。『指南』の用例は宇佐美 (2019) における広義の「談話」に相当するが、文字化された資料を対象としているので「テキスト (text)」と称するべきかもしれない。しかし『指南』はあくまで実践的な会話能力向上をめざす学習書であり、当時の北京の口語が忠実に再現されている。そのためここでは「テキスト」ではなく「談話」と称する。

## 2. 『指南』における依頼発話

本章では『指南』（1882年初版本を底本とする<sup>3)</sup>）の全スキットから「依頼発話」の用例を抜き出し、その表現形式と依頼者、被依頼者の社会的属性・要求行為の負荷度との間にどのような相関関係があるかについて考察する。

## 2.1 依頼者、非依頼者の社会的属性と要求行為の負荷度

### 2.1.1 社会的属性による分類

依頼者、被依頼者の社会的身分関係について、官職、称号を持つ役人、豪商を「U」で示し、地位や経済的基盤を持たない一般市民、使用人を「L」とする。なお、身分の上下が不明な場合は分析の対象外とした。また、文脈や呼称などから年齢差が分かる場合、年上を「E」、年下を「Y」で示す。括弧内の矢印の左側は依頼者、右側は被依頼者を表す。

### 2.1.2 要求行為の負荷度

本稿では行為の負荷度を「高」、「低」に分類した。それぞれの定義は以下の通りである。

「低」：下記のいずれかの条件を満たす要求行為を「低」と見なす。

- ・挨拶の際に常套句として用いられる依頼発話で、要求行為を被依頼者が拒むことが予想されない。
- ・職業的立場により、被依頼者が要求行為に対し協力的だと予想される。
- ・要求行為が被依頼者からの自発的な提案による。
- ・依頼者は要求行為を被依頼者が実行することを強く期待しない。

「高」：上記の「低」の条件を満たさない要求行為を負荷度「高」とする。

## 2.2 用例の提示

以下、『指南』より「依頼発話」を抜き出し、依頼者、被依頼者の社会的属性と要求行為の負荷度により分類し、表現の特徴を探る（「応」は「応対須知」、「吐」は「官商吐属」、「使」は「使令通話」、「問」は「官話問答」を表す）。

### 2.2.1 行為の負荷度：低

#### ① 【U→U】

- 1) 請您賞收, 千萬別推辭。(応 32)
- 2) 還請您帶我去見一見令尊大人致賀。(応 32)
- 3) 到家裏都替我請安問好罷。(UE→UY) (吐 3)
- 4) 那麼勞老弟的駕, 到家裏先替我請安, 道新喜罷。(UE→UY) (吐 4)
- 5) 既是這麼着, 您就給我說說罷。(UE→UY) (吐 24)
- 6) 諸事還要求王爺、中堂大人們指教。(問 1)
- 7) 請大人別見怪。(問 1)

---

<sup>3)</sup> 内田・氷野 (2016,1-74)

- 8) 大人恕我們來遲。(問 2)
- 9) 求大人原諒。(問 2)
- 10) 請大人見一見。(問 3)
- 11) 可不知道有甚麼新聞沒有，我們要請教的？(問 3)
- 12) 倘或大人上京之時，請您先期賞我個信。(問 4)
- 13) 趕大人到京之後，還要求賞給一信，以慰遠念。(問 4)
- 14) 求大人擔待些個纔好，並且還要求大人諸事指教。(問 4)
- 15) 閣下回去，替我們問欽差大人好。(問 5)
- 16) 今日兄弟來，打算初五奉請兄台，在同慶堂一聚會，(UY→UE) (問 14)
- 17) 求老兄千萬賞臉別推辭。(UY→UE) (問 14)
- 18) 兄弟這是初次到貴處，一切未諳，諸事總是求老兄指教。(UY→UE) (問 15)
- 19) 老兄回府，先替我給伯母大人請安。(UE→UY) (問 15)
- 20) 諸事仰仗兄台指教。(UE→UY) (問 16)
- 21) 還要求閣下多指教。(問 18)
- 22) 諸事還要請教閣下哪。(問 18)

② 【L→L】

- 23) 到底據我想，您把收拾表的傢伙帶上，(吐 14)
- 24) 你把這個十吊錢的票子給破五個一吊一個五吊。(吐 34)
- 25) 你點點對不對。(吐 34)
- 26) 請您明兒個早起在家裏等着。(吐 37)

表 1 「要求行為負荷度：低」の依頼発話

	① 【U→U】 (用例数 22)	② 【L→L】 (用例数 4)
請+H+Vp	5	1
要請+H+Vp	1	0
要求+H+Vp	4	0
求+H+Vp	4	0
～罷	3	0
可不知道～？	1	0
その他(敬辞や文語体で丁寧さを表す)	4	0
配慮表現無し	0	3

(H：被依頼者を表す代名詞、尊称)

負荷度が低い依頼表現には以下の特徴が確認された。

### ①【U→U】

最も使用頻度の高い表現は「請+H+Vp」（5例・23%）で、「H」には代名詞「您」、尊称「大人」が置かれる。次に多く見られるのは「求+H+Vp」（4例）、「要求+H+Vp」（4例）だが、このうち「要求+H+Vp」は必ず副詞「還」を前に置き、新たに依頼を付加する意味で用いられるため、「求+H+Vp」を基本形として見なす。「求+H+Vp」は「請+H+Vp」に比べて丁寧度の高い表現である。現代においては依頼者が権威、支配力が圧倒的に強い被依頼者に敬意を表す、もしくは依頼者の切羽詰まった強い要求を表す。なお、北京大学中国語言学研究中心現代漢語語料庫（以下「CCL コーパス」とする）にて検索範囲を「現代」に絞り、「求+H+Vp」（Hは「您」、「你」「大人」に限定した）を検索したところ、該当する用例（37例）はすべて同様の状況下で用いられることが確認された。以下、CCL コーパスより一部用例を引用する。

27) 李石清：（可怜他，但又厌恶地）你老跟着我有什么用！

黄省三：李先生，您行行好，求您再跟潘经理说说，只求他老人家再让我回去，就是再累，累死我，也心甘情愿。（曹禺『日出』）

[李石清「(気の毒そうではあるが、煩わしげに)俺に纏わりついてはどうしようもないぞ!」

黄省三「李先生、どうかうまく取り計らってください。潘頭取にもう一度私を戻してもらえるように仰ってください。どれほど仕事が辛くとも甘んじてお引き受けします。」]

上記は銀行の下級書記黄省三が潘頭取に不当に解雇されてしまったため、潘頭取の秘書李石清に近づき、再度雇用してもらえよう頭取に口添えを依頼する場面である。路頭に迷うことになった黄省三の必死の依頼が表現されている。

28) 于大璋：这批活儿你们做得确是不坏！可就怕呀，以后……（话被黄抢去）

黄庆元：于科长，你自管放心！凭你一句话，我们大家都热诚地托福！我们丁经理常说，作生意没有不赚钱的，可是不能主观地胡来。我们保证，以后做的活儿要比今天您看见的更加强，更好！以后还求您多分心照顾！（老舍『春華秋実』）

[于大璋「この仕事は確かに悪くないが、心配しているのは今後…」(黄慶元が横やりを入れる)。

黄慶元「于科長、ご安心ください。あなた様のお言葉一つで我々は大変な恩恵を被るのです。丁社長も常にこう申しております。商売とは儲けなければならないが、主観的にいい加減にやってはいけないと。今後の製品は今日ご覧頂いたものよりさらに上質で素晴らしいものを作るとお約束します。今後ともどうぞよろしくお願い致します。」]

上記は栄昌鉄工場の渉外係黄慶元と国民党政府から留用された機関幹部于大璋との会話で、栄昌鉄

工場は政府から揚水機の発注を受けており、ちょうど下検分を終えた場面である。黄慶元は、政府機関の幹部でクライアントの手大璋に大変気を遣い、両者の上下関係は明らかである。

一方『指南』において、「求+H+Vp」は依頼者、被依頼者の間に力関係、支配力が存在せずとも使用できる。さらに例 14、17、18 の要求行為は被依頼者にとって負荷度は低く、依頼者から見ても差し迫った依頼ではなく、「求老兄指教」(例 18) のような定型化された挨拶表現においても用いられる。なお、この表現は「官話問答」の外交官同士の会話、もしくは清国の要人と日本の公使との会話に集中して見られることから、外交上のフォーマルな表現として当時定着していたと考えられる。

つづいて用例数が多いのは「～罷」で、3 例見られた。用例の内訳は、例 3、4 が別れ際の挨拶としての常套句「ご家族によりしくお伝えください」で、例 5 が被依頼者の厚意に甘え地方役人への推挙を依頼する台詞「そういうことであればご推薦お願いします」である。王志英 (2005,179) によれば、語気助詞「吧」(『指南』の「罷」に相当する) は話し手が聞き手の存在を認定し配慮しながら発話していることを示し、聞き手に発言や断わる余地を与えることにより謙虚な印象を与えるという。ここでの「～罷」は「請+H+Vp」、「求+H+Vp」に比べて丁寧度は低いものの、依頼者が敢えて被依頼者に実行の意思を委ねる態度を示し間接的な依頼表現を使用していると考えられる。

その他 1 例のみの表現としては「可不知道～？」が見られた。例 11 「可不知道有什麼新聞沒有，我們請教教的？」(我々にお教え頂けるような情報は何かございますか) は直接依頼するのを避け、疑問文を用い一步退いた態度を示すことにより、丁寧さを含意する。

残りの 4 例は定型化された統語的表現は見られないものの、敬辞や書面語の性格を持つ表現 (例 8 「恕」、例 16 「奉請」、例 18 「貴處」、例 20 「諸事仰仗」) で格式と恭順さを示している。また表には記載していないが、20 例中 18 例において依頼者は被依頼者に対し、二人称代名詞の敬語表現「您」や「閣下」「老兄」「兄台」「欽差大人」「伯母大人」等の尊称を用い敬意を表す。

### ③ 【L→L】

話し手、聞き手共に社会的地位が低い用例は 4 例あったが、そのうち 1 例で「請+H+Vp」が見られた (例 26)。ただし、この例は下層階級の人同士 (L→L) に分類したものの、屋敷の使用人を装った詐欺師が医者に対して述べた台詞なので、両者に上下関係が存在する。また (表面上は) 依頼者は主人の代理として依頼要求を行っているため、主人の品位を汚さぬように丁寧度の高い表現を選ぶ必要がある。それ以外の 3 例では①で見られた配慮表現は用いられていない。

## 2.2.2 行為の負荷度：高

### ③ 【U→U】

29) 聽說你認得他，所以懇求閣下代爲介紹。(応 19)

30) 那麼我租妥之後，除了我住多少間，下餘多少間還要求您替我招租。(吐 1)

31) 因爲他現在等錢用，託我把他這地畝、園子給他典出去，所以我來問問您納，若是您願意典過來，我可以給您辦辦。(UY→UE) (吐 8)

- 32) 我來找您是和您借一項銀子。(吐 9)
- 33) 我打算求您這幾天把他找到您家裏來，勸勸他，總是能叫他不分家纔好哪。(UY→UE) (吐 11)
- 34) 這裏頭我還有件事忘了，求先生替我想想。(吐 38)
- 35) 請先生把這件事也叙在那日記裏頭，您想好不好？(吐 38)
- 36) 你就作保，可以不可以？(使 1)
- 37) 不過求閣下將此事回明知縣，就提我請他趕緊彈壓，免生意外之事是要緊的。(問 5)
- 38) 如今我們欽差大人就求王爺、中堂大人們，再咨請各省督撫大人，轉飭所屬，後來若是有外國人帶着護照，到處有歷，地方官總應當加意保護，以符條約，是要緊的。(問 5)
- 39) 領事官派我來，請大人函致稅務司。如若劉雲發完清稅項，暫且把他的貨船扣留，等他還清水脚，由我們領事官知會大人，轉致稅務司放行。(問 7)
- 40) 我斗胆說一句話，求大人可別見怪。(問 9)
- 41) 那麼就還請大人飭縣照辦就是了。(問 10)
- 42) 先別叫信成領去，由知縣把信成欠恒裕洋行那五千兩貨銀扣下，其餘的銀兩再叫王保山領去。(問 10)
- 43) 所以特來奉懇兄台代為辦理。(UY→UE) (問 13)
- 44) 老兄若有素識投供的朋友，求給我找一位互結官纔好。(UY→UE) (問 14)
- 45) 所以特來求老弟出頭給他們說合說合。(UE→UY) (問 19)
- 46) 遇便求您給他帶到英國去。(問 20)

④ 【U→L】

- 47) 你等我再各處給你找一找去。(吐 32)

⑤ 【L→L】

- 48) 求你們把這封信拆開，念給我聽聽。(吐 36)
- 49) 你們把這十兩銀子拿下去平一平，都給換了現錢罷。(吐 36)

⑥ 【L→U】

- 50) 我打算求您給我舉薦舉薦。(吐 10)
- 51) 求你念其僭們倆舊日的交情，借給我一百兩銀子，我作盤費回家去。(吐 31)
- 52) 求老爺問他，到底他到小的家裏是幹甚麼去了。(吐 35)
- 53) 求老爺提醒我罷。(使 4)
- 54) 請您去看看。(使 10)
- 55) 求老爺把下月的工錢支給小的。(使 13)
- 56) 老爺別生氣，是小的拿老爺的東西了，求您寬恕罷。(使 15)
- 57) 老爺別這麼說。(使 16)
- 58) 一層是先求那位老爺支給小的十塊錢安家。還有一層，每月小的的工錢得起京裏兌給小的家裏五六

塊錢，就省得小的打外頭往京裏帶錢囉瑣了。（使 20）

59) 小的願意每月起老爺手裏，兌給小的家裏錢，纔妥當哪。（使 20）

表 2 「要求行為負荷度：高」の依頼発話

	③ 【U→U】 (用例数 18)	④ 【U→L】 (用例数 1)	⑤ 【L→L】 (用例数 2)	⑥ 【L→U】 (用例数 10)
請+H+Vp	2	0	0	1
要求+H+Vp	1	0	0	0
求+H+Vp	6	0	1	6
打算求+H+Vp	1	0	0	1
不過求+H+Vp	1	0	0	0
懇求+H+Vp	1	0	0	0
奉懇+H+Vp	1	0	0	0
～罷	0	0	1	0
疑問文	2	0	0	0
小的願意～	0	0	0	1
仮定表現 [若(是)～]	2	0	0	0
配慮表現無し	1	1	0	1

負荷度が高い依頼表現には以下の特徴が確認された。

### ③ 【U→U】

話し手、聞き手共に社会的地位が高い場合、最も使用頻度の高い表現は「求+H+Vp」（6例）であり、系統を同じくする「(還) 要求+H+Vp」（1例）「打算求+H+Vp」（1例）、「不過求+H+Vp」（1例）を含めると9例（50%）見られた。また「請+H+Vp」は2例（11%）に留まり、負荷度が高い依頼ではより丁寧度が高い表現が好まれることが分る。さらに「求+H+Vp」よりもより強い敬意を表す「懇求+H+Vp」、「奉懇+H+Vp」も1例ずつ見られる（例 29、43）。その他、要求を被依頼者に強要せず拒む余地を与える表現として、疑問文（例 35）や仮定表現（例 31、44）も見られた。また 18例中、16例において被依頼者に対し、二人称代名詞の敬語表現「您」「您納」、尊称「王爺」「中堂大人們」「閣下」「老兄」「兄台」「大人」等を用い聞き手に敬意を示している。

### ④ 【U→L】

上層階級の話し手が下層階級の聞き手に依頼する例は1例のみであったが、配慮表現は見られなかった。

### ⑤ 【L→L】



下層階級同士の会話2例では配慮表現として「求+H+Vp」(例48)、「～罷」(例49)がそれぞれ1例ずつあった。いずれも客を装う詐欺師が両替商に手紙の代読と銀の換金を依頼し、結果的に金銭を騙し取る場面であるが、聞き手に敢えて丁寧な態度を取るにより策略に陥れようとする意図が背後に隠れている。

## ⑥ 【L→U】

下層階級の話し手が上層階級の聞き手に依頼する例は10例確認できた。そのうち「求+H+Vp」(6例)が最も使用頻度が高く、①でも触れた通り、話し手が権威、支配力が圧倒的に強い聞き手に配慮する場面に多用されることが分る。また「依頼者：使用人、被依頼者：主人」「依頼者：訴訟人、被依頼者：役人」の発話では、依頼者は自己を謙辞「小的」を用い卑下し、被依頼者に対しては「老爺」と敬い、常に上下関係を意識し丁寧さを際立たせた上で依頼を行っている(例52～53、55～59)。

## 2.3 まとめ

以上の用例分析から以下の点が明らかとなった。

1) 現代の中国語において「求+H+Vp」はBrown&Levinson(1987)のポライトネス理論に則していえば、要求行為のフェイス・リスクを規定する三要因「話し手と聞き手の社会的距離(D)」「聞き手の話し手に対する力(P)」「行為の負荷度(R)」のうち、特にP、Rによりフェイス・リスクを脅かす度合い(W)が相対的に大きくなる際に使用される。例えば、依頼者が権威、支配力が圧倒的に強い被依頼者に配慮する際や(P値大)、依頼者が要求の実現は困難と知りながらもやむを得ず被依頼者に懇願する際(R値大)に使われ、D、P、Rの三要因のうち複数の要因の値が大きい場合も(例えば親しくない人に緊急の依頼をする等)使用可能である。Wの値が相対的に小さくなる場合は「請+(H)+Vp」、もしくは状況に応じてさらに丁寧度の低い表現を用いる。

『指南』における「求+H+Vp」も現代の中国語に近い傾向が見られる。前節で確認した通り、①と③は上層階級の人同士の会話(U→U)だが要求行為の負荷度が高い③の方が「求+H+Vp」の使用頻度が高く(R値大)、下層階級の依頼者が負荷度の高い依頼を行う⑤、⑥のうち、非依頼者が上層階級に属する⑥の方が使用頻度が高い(P値大)。その一方で、外交上のフォーマルな表現としてはP、R値が小さくD値のみが大きい場合も使用でき、この点においては現代とは異なる。

2) 上層階級の人同士の会話(U→U)では要求行為の負荷度にかかわらず配慮表現を用いるが、社会的地位の低い人同士はほとんど用いることはない。下層階級の人同士(L→L)の会話例は今回少なかったが、②のように上層階級の人の代理として依頼要求を行う等、特別な文脈がある場合を除き配慮表現は見られなかった。藤堂(1974,154-155)はかつて伝統的な中国社会において庶民の間では敬語は使われなかったと指摘したが、同様の傾向が伺われる。

3) 上層階級の人同士の会話(U→U)、下層階級から上層階級の人に対する会話(L→U)においては、被依頼者に対し尊称が頻繁に使用される。また、使用人の主人に対する発話では、相手を「老爺」を用いて敬うだけでなく、自己を謙辞「小的」で表して遜り、恭順さを示す例が多い。中国語の尊称は、ポライトネスとして聞き手との距離を縮めたり、遠ざけたりすることが可能であるが、ここではネガ

タイプポライトネスのストラテジーとして上下関係、親疎関係の隔たりを際立たせ、丁重さを示し、発話の効果を高めようとしている。

4) 上層階級の人同士の会話 (U→U) では依頼者、被依頼者の年齢差が判断できる用例が一部あったが、依頼発話の表現形態と年齢差との間に特に相関性は見いだせなかった。

### 3. 談話構成の考察

2 章では依頼発話を一文単位の言語形態で分析を行ったが、本章では考察範囲を「依頼談話」へと広げ、談話構成の展開パターンについて考察する。

#### 3.1 分析方法

本稿では該当する用例のうち、依頼の言語行動の実現形として現れる発話の開始部から直接依頼に至る「依頼発話」までの談話を取り上げ、その談話構成を目的達成の戦略として機能する単位ごとに分類する。なお機能的単位の項目については、謝オン(2001,86)、李宜真(2008,119)が依頼談話の日中比較研究で用いた枠組みを参考に、以下の通り作成した(「用例」は現代中国語の例文を筆者が作成した)。

表3 機能的単位の項目

機能	項目名	用例
A 注意喚起	A 名詞	小王、～先生
B 補助使用	B1 名乗り・自己紹介	我姓张, 住在～
	B2 話題提示	我想拜托您一件事
	B3 状況・理由説明	上个月我把工辞了, 现在手头很紧
	B4 情報確認	你有没有那个化学笔记啊?
	B5 恐縮	不好意思
	B6 条件	如果行的话、有时间的话
	B7 不一致の回避	我明白您的意思
C 行為要求	C 依頼発話	请把那边的窗子打开一下

#### 3.2 依頼場面の談話分析

本節では依頼場面の談話を参加者の社会的属性と要求行為の負荷度により分類し、談話構成の展開パターンについて考察する。なお、台詞冒頭の分類記号については以下の通りである(「応」は「応対須知」、「吐」は「官商吐属」、「使」は「使令通話」、「問」は「官話問答」を表す。なお、漢字の右側の数字は各篇内の章を表す。「S」は依頼者、「H」は被依頼者を示す。さらに台詞を機能的単位ごとに

分け、英字右側に通し番号を附した)。

### 3.2.1 「要求行為負荷度：低」

2.2.1 の用例で示した通り、要求行為負荷度が低い場面での依頼表現は挨拶の際の常套句として用いられる例が多く、そのほとんどが依頼発話のみの単文である。複数の文から構成される談話は2例のみであった。使用された機能的単位は B1、B3、C で、談話参加者の社会的属性により出現回数を分類すると表4の通りになる。

表4 依頼場面「要求行為負荷度：低」における機能的単位の出現数

機能	項目名	①【U→U】 (用例数1)	②【L→L】 (用例数1)
A 注意喚起	A 名詞	0	0
B 補助使用	B1 名乗り・自己紹介	0	1
	B2 話題提示	0	0
	B3 状況・理由説明	1	1
	B4 情報確認	0	0
	B5 恐縮	0	0
	B6 条件	0	0
	B7 不一致の回避	0	0
C 行為要求	C 依頼発話	1	1

また依頼談話の展開パターンを項目順に表すと以下の様になる。

① 【U→U】 B3→C (1例)

② 【L→L】 B1→B3→C (1例)

補助使用の機能的単位として①、②ともに「B3 状況・理由説明」が導入され、②の例61では依頼者は被依頼者と初対面のため「B1 名乗り・自己紹介」も加えられている。以下にそれぞれの用例を附す。

#### ① 【U→U】

60) 応 32S1:今兒個是令尊大人的千秋,我特意來拜壽,預備一點兒薄禮,(B3)

応 32S2:請您賞收,千萬別推辭。還請您帶我去見一見令尊大人致賀。(C)

[今日はお父様のお誕生日ですから、ご挨拶に参り、心ばかりの品を準備致しました。

どうかお納めください。どうかご辞退なさないで下さい。また、お父様にお目通りして祝辞を述べられるよう、ご案内お願い致します。]

## ② 【L→L】

61) 吐 37S1:我是在某宅裏, (B1)

吐 37S1:因爲現在我們老爺和我們太太病了, 打算上您這兒瞧病來。(B3)

吐 37S1:請您明兒個早起在家裏等着。(C)

[私は某宅にいるものですが、私共の旦那様も奥様もご病気ですので、診察のお願いに伺いたいと思います。明日の朝ご自宅でお待ちください。]

### 3.2.2 「要求行為負荷度：高」

談話参加者の社会的属性により出現回数を分類すると表5の通りになる。

表5 依頼場面「要求行為負荷度：高」における機能的単位の出現数

機能	項目名	③ 【U→U】 (用例数 19)	⑤ 【L→L】 (用例数 1)	⑥ 【L→U】 (用例数 3)
A 注意喚起	A 名詞	2	0	0
B 補助使用	B1 名乗り・自己紹介	1	0	1
	B2 話題提示	14	1	0
	B3 状況・理由説明	13	1	3
	B4 情報確認	1	0	0
	B5 恐縮	2	0	0
	B6 条件	3	0	0
	B7 不一致の回避	1	0	0
C 行為要求	C 依頼発話	19	1	3

また依頼談話の展開パターンを項目順に表すと以下の様になる。

表6

③ 【U→U】	B2→C	(3例)
	B3→C	(3例)
	B2→B3→C	(6例)
	B7→B2→C	(1例)
	B2→B3→B6→C	(1例)
	B2→B5→B3→C	(1例)
	B4→B3→B6→C	(1例)
	B5→B1→B4→C	(1例)

A→B2→B3→C (1例)

A→B2→B3→B6→C (1例)

④【U→L】用例なし。

⑤【L→L】B2→B3→C (1例)

⑥【L→U】B3→C (2例)

B1→B3→C (1例)

以上のパターンのうち、用例数の多い③「依頼者、被依頼者共に社会的地位が高い場合 (U→U)」を中心に考察する。表5の③を表4の①と比べると、要求行為の負荷度が高い場面では低い場面に比べ、明らかに多くの機能的単位が用いられていることが分る(表4の①では用例数は1つのみだが、実際は「依頼発話(C)」のみの単文が大半を占める)。次節では機能的単位について使用頻度が高い順に説明する。

### 3.2.2.1 「話題提示 (B2)」、「状況・理由説明 (B3)」について

表5において最も使用頻度が高いのは「話題提示 (B2)」、「状況・理由説明 (B3)」である。③におけるB2は以下のような表現が見られた。

“我是來找您說句話。” “我有件事託你辦辦。”

“我來是有件爲難的事，要求您替我辦辦。”

“我今兒個打算和先生斟酌一事情。”

“今日我到府上來，是有奉兄台的事情。”

“今日我到貴衙門來，是和大人面商一事情。”

③の談話の展開パターンとしては「B2→B3→C」が最も多く、「B2→C」「B3→C」がそれに次ぐ。以下に各パターンを1例ずつ挙げる。

#### 62) B2→B3→C

応 19S1: 我有件事託你辦辦。(B2)

応 19H1: 甚麼事? 請說罷。

応 19S2: 我記得前天新聞紙上記載，有一位會寫字畫的，姓祝，實在羨慕得很。聽說你認得他 (B3)

応 19S3: 所以懇求閣下代爲介紹。(C)

[私はあなたにお願いしたいことがあります。何でしょう。仰ってください。一昨日の新聞に書画の心得がある祝さんという方のことが取り上げられていたと記憶していますが、本当に羨ましいです。聞けばあなたはその人のことをご存知とのことですから、あなたにご紹介頂きたいのです。]

#### 63) B2→C

吐 9S1: 我是來找您說句話。(B2)

吐 9H1:是, 您請坐。您坐下。您這幾天沒出門麼?

吐 9S2:沒有。因爲我這幾天有點兒不舒坦,所以沒出去。

吐 9H2:現在倒大好了?

吐 9S3:是, 大好了。

吐 9S4:我來找您是和您借一項銀子。(C)

[あなたにお話があつて参りました。そうですか、お掛け下さい。ここ数日お出かけになりましたか。いいえ、このところ体調が悪く外出しておりません。今はお元氣になられたのですか。はい、大変良くなりました。私がお尋ねしたのはお金をお借りしたいためです。]

64) B3→C

使 1S1:既然是你舉薦他來的, (B3)

使 1S2:你就作保, 可以不可以? (C)

[あなたが彼を斡旋してくれたのですからあなたに請負人になって頂いても良いですか。]

表 6 を見ると、以上の 3 形式以外のパターンにおいても、1 例を除き B2、B3 の両方、もしくは一方を用いることが分る。なお例外の 1 例「B5→B1→B4→C」(例 65)を確認すると、「情報確認 (B4)」は依頼者が被依頼者のもとを訪ねるきっかけとなった情報が真実か否かを確認する内容である。つまり「情報確認 (B4)」は実際には「状況・理由説明 (B3)」を兼ねている。

65) B5→B1→B4→C

吐 1H1:您貴姓?

吐 1S1:豈敢, (B5)

吐 1S2:賤姓王。(B1)

吐 1H2:府上在那兒住?

吐 1S3:舍下在東單牌樓總布胡同。(B1)

吐 1H3:您在那衙門行走?

吐 1S4:我是在兵部當差。(B1)

吐 1H4:您到舍下來是有甚麼事情麼?

吐 1S5:是,我來是和您打聽一件事情,是我聽見說您這西院裡那處房要出租,是真的麼?(B4)

吐 1H5:不錯,是真的。怎麼?您要租麼?

吐 1S6:是,我打算要租。(C)

[お名前は何と仰いますか。恐れ入ります。王と申します。どちらにお住まいですか。東單牌樓の総布横町に住んでおります。どちらの部署にお勤めですか。兵部に所属しております。どの様なご用件でお越し頂いたのでしょうか。はい、お尋ねしたことがあり参りました。御宅の西側の棟をお貸しになるというのは本当でしょうか。はい。本当です。なぜですか。お借りになりたいのですか。はい。お借りしたいのです。]

また⑤「下層階級の人同士の会話 (L→L)」、⑥「依頼者が下層階級、被依頼者が上層階級の場合 (L→U)」においても B2、B3 の両方、もしくは一方のみが含まれ、この二つの項目が談話において重要な機能を果たすことが確認できる。趙宏杰 (2014,109-134) は現代中国語の依頼談話 42 例の内部構造を分析した結果、依頼交渉成立の前提である前半の話段において、必ず「話題表示」(B2 に相当) が現れ、話談の構成においては 1 例を除いてすべてに「依頼事情の説明」(B3 に相当) が含まれると結論づけている。ここから現在においても B2、B3 が依頼談話の構成要素として主要な役割を果たすとなっていることが分る。

### 3.2.2.2 「話題提示 (B2)」、「状況・理由説明 (B3)」以外の機能的単位について

B2、B3 を基柱としつつ、依頼者と被依頼者の関係、被依頼者の反応、要求内容の実現の可能性などにより、補助使用の機能的単位がさらに付加される。

例えば依頼者と被依頼者が初対面であれば「名乗り・自己紹介 (B1)」が談話冒頭に現れる (例 65, 吐 1S2-4)。

被依頼者が依頼者に対し反応、興味を示してくれれば、「恐縮 (B5)」として“豈敢”(恐れ入ります) を用い、謙遜の情を示す。“豈敢”は清代以前から読書人の中で用いられてきた儀礼的な常套句で、例 65 (吐 1S1) では被依頼者が名前を尋ねてくれたことに対する恐縮、例 68 (官 4S2) では被依頼者が相談に応じてくれたことに対する恐縮を表している。現代では「滅相もない」と自分の意思や状況を強く否定する際に用いられ、当時のような社交辞令としての出番は少なくなった。

要求内容の実現には一定の条件が必要である場合、依頼者は「条件 (B6)」を用い、条件を満たさない限りは被依頼者に強要する意思はないことを保証する。例えば例 66 (吐 8S5) では、被依頼者が質入れの意思がなければ依頼者はそれ以上要求しない態度を表し、フェイス・リスクを回避している。

#### 66) A→B2→B3→B6→C

吐 8S1:大哥, (A)

吐 8S2:我今兒個特意來,和您商量一件事。(B2)

吐 8H1:是甚麼事情?

吐 8S3:我有個朋友,他在京西住家,他有幾頃地,有一處果木園子,一處菜園子。因爲他現在等錢用,託我把他這地畝、園子給他典出去, (B3)

吐 8S4:所以我來問問您納,

吐 8S5:若是您願意典過來, (B6)

吐 8S6:我可以給您辦辦。(C)

[今日ご相談したいことがありわざわざ参りました。どの様なご用件ですか。私の友人が北京の西に住んでいまして何頃の土地と果樹園、野菜畑を持っています。彼はお金が必要とのことで、私に彼の土地と畑を質入れしてくれと依頼されました。それで、もし質入れにご興味がありましたら斡旋いたしますが、如何でしょう。]

依頼者が被依頼者の対応に不満を感じた場合、依頼者は「不一致の回避 (B7)」を用い対立を最小限にした上で、再度依頼を試す戦略を用いる。例 67 は日本の商社「恒裕洋行」(以下「恒裕」)が清国の洋品店「信成洋貨鋪」(以下「信成」)に対し商品代金の未払いについて告訴したが、信成自体も雑貨店「富順雜貨棧」(以下「富順」)から多額の掛金を回収できず、その結果、恒裕への支払いが滞っていることが判明した場面である。日本の公使の代理人(依頼者)が清国の大臣(被依頼者)に依頼し、知県にこの件の対応を促すよう求めたが、清側は恒裕が信成を、信成が富順を告訴し、各々別に法的に処理するのが妥当だと回答する。これでは富順から未収金を回収しても恒裕に支払われる確証が無いため、日本側(依頼者)が以下の通り再度依頼する。

#### 67) B7→B2→C

官 10S4:我想大人所說的也很有理, (B7)

官 10S5:不過有一層請大人吩咐知縣。(B2)

官 10S6:將來王保山到縣控告富順, 知縣把富順棧, 欠信成的銀兩追出來的時候, 先別叫信成領去, 由知縣把信成欠恒裕洋行那五千兩貨銀扣下, 其餘的銀兩再叫王保山領去。(C)

官 10S7:大人想這麼辦好不好?

[仰ることはごもっともですが、ただ一つ閣下から知県にお願いして頂きたいがございます。今後王保山(信成の店主)が県に行き富順を訴え、知県が富順の信成に対する未払い代金を追徴されましたら、まず信成にそのまま追徴金を渡さず、恒裕に未払いの五千兩の代金を知県が差し引いた上で余剰金を王保山に渡すようお願い致します。閣下はこの対応をどう思われますか。]

官 10S4 で相手の提案の妥当性のある程度受け入れ、意見の対立を際立たせないよう配慮をした上で、新たに「話題提示 (B2)」、「依頼発話 (C)」へと展開している。また C のすぐ後に相手への意向確認を行い(官 10S7)、要求の強要を形式上は避けるストラテジーを用いている。

最後に注意喚起の機能を持つ単位としては「名前 (A)」のみ現れた(例 6, 吐 8S1)。謝オン(2001,86)、李宜真(2008,119)によれば、現代中国語ではこれ以外に「感嘆詞(例：“哎”“噫”）」「挨拶(例：“你好”）」が注意喚起の役割を果たすが、『指南』では見られなかった。

#### 3.2.2.3 「依頼発話 (C)」に後続する機能的単位

本稿では依頼談話の開始部から直接依頼に至る(つまり「依頼発話 (C)」)までを分析対象としたため、C に後続する機能的単位については表 4、5 に含めなかった。しかし「官話問答」の外交官、政府の要人の談話(U→U)においては、C に後続する機能的単位が有効的に働くケースが数例見られたので一部紹介する。

68) 官 4S1: 還有一件事托咐大人。(B2)

官 4H1: 大人有甚麼事, 只管吩咐。

官 4S2: 豈敢, (B5)

官 4S3: 我們這個領事官, 人甚年輕, 況且又是初次當差, 尙欠歷練。倘有不到之處, (B3)



官 4S4:求大人擔待些個纔好, 並且還要求大人諸事指教, (C)

官 4S5:俾伊有所遵循, 則我感同身受矣。

[それから閣下に一つお願いしたいことがございます。何かございましたらお申し付け下さい。

恐れ入ります。私どもの領事は若輩でその上今回初めて就任したため経験がございません。もし至らぬ点がございましたらご容赦下さいますようお願い申し上げます。あわせて万事ご指導頂きますようお願い申し上げます。お導き頂けましたら我が身と同様に感激致します。]

69) 官 16S1:前次兄弟曾託孔兄來, 面求老兄一件事, 今日我斗胆特來奉懇。(B2)

官 16H1:不是爲令弟的那件事情啊?

官 16S2:不錯, 就是那件事。(C)

官 16H2:我是因爲才疎學淺, 恐怕耽悞令弟的科名, 不敢率允。

官 16S3:老兄太謙了。若是舍弟拜在老兄門下, 得親大教, 學業日新, 何幸如之。

[先日孔さんを通じてご依頼しました通り、貴殿にお願いしたいがございまして、今日あえて参りました。ご令弟のことではありませんか。はい、その件です。私は浅学菲才で、ご令弟の出世を遅らせることになりかねませんので、お引き受けかねます。ご謙遜が過ぎます。舍弟が貴殿の門下生になり、直接ご指導頂けましたら、学業は日々進歩し、これ以上の僥倖はございません。]

例 68 (官 4S5)、例 69 (官 16S3) に見られる「～たら感謝する」という表現は、依頼内容を条件に先行感謝を行う機能を持つ。これにより希望が実現すれば依頼者側の恩恵がどれほど大きいかを強調する。「官話問答」の先行感謝の表現は「則我感同身受矣」「何幸如之」のように文語体が用いられることが多く、外交に携わる人間関係の中でフォーマルな表現が好まれる傾向がある。

#### 3.2.2.4 【L→L】【L→U】の用例

用例数は少なかったが、【L→L】(1例)、【L→U】(3例)についても触れておく。

##### ⑤ 【L→L】

70) B2→B3→C

吐 36S1:還有一件事, (B2)

吐 36S2:我是不識字, (B3)

吐 36S3:求你們把這封信拆開, 念給我聽聽。(C)

[もう一つお願いがあります。私は文字が読めないなのでこの手紙を開けて読んで聞かせてもらえませんか。]

##### ⑥ 【L→U】

71) B3→C

吐 10S1: 我今兒來見您, 是因爲有一處活我要應, 就是沒有薦主, (B3)

吐 10S2:我打算求您給我舉薦舉薦。(C)

[今日参りましたのは、一か所請け負いたい仕事があるのですが、推薦者がいないので私をご推薦頂きたいのです。]

72) B3→C

吐 31S1: 昨兒個有偈們一個同鄉的朋友告訴我，你到這兒辦貨來了，住在這個店裏了。我聽見說很喜歡，所以現在我來找你，(B3)

吐 31S2: 求你念其偈們倆舊日的交情，借給我一百兩銀子，我作盤費回家去。(C)

[昨日我々の同郷の友人が、あなたがここに品物を仕入れに来てここに宿泊されていると教えてくれました。それを聞いて嬉しく思い、今訪ねてまいりました。どうか我々旧知の間柄を思っ  
て帰郷するための百両のお金をお貸してください。]

73) B1→B3→C

吐 35S1: 小的名字叫俞配，是江西臨江府的人，在這本地開着個成衣舖。(B1)

吐 35S2: 因爲小的去年在這兒買了一個妾，就在這個鎮店上燈籠衛衛租了兩間房住家。剛纔小的在舖子裏做活了，打發一個徒弟到家裏取東西去了，他回來說，小的家裏坐着一個年輕的人，他不認得是誰。小的聽這話很犯疑，就趕緊的到家裏瞧去了，趕小的到了家一瞧，街門對着了。小的推開了街門，進到屋裏去一看，就見這個人在屋裏坐着喝茶了，和小的的那個妾，又說又笑的。小的就問他，你是誰，到我家來作甚麼？他回答說，他是到小的家裏打茶圍去了。小的聽這句話氣急了，就打了他一個嘴巴，他回手就把小的的臉抓了。這麼着，小的就把他揪來打官司。  
(B3)

吐 35S3: 求老爺問他，到底他到小的家裏是幹甚麼去了。(C)

[私は俞配と申し、江西省臨江府の出身です。当地で仕立屋を営んでいます。昨年当地で妾を買  
い、この町の燈籠横丁に二間の家を借りて住まわせています。先ほど私は店で仕事をしておりま  
して、弟子を遣わせ家へ物を取りに行かせました。弟子が言うには、私の家に見知らぬ若者が座  
っていたそうです。それを聞いて疑いを抱き、急いで家に見に参りました。帰って見ますと、家  
の門はぴったりと閉じられていました。扉を開け、部屋に入り見ると、その男は部屋で座ってお  
茶を飲み、私の妾と談笑していました。私は「お前は誰だ。人のうちで何をしている」と尋ねた  
ところ、お茶屋遊びに来たのだと答えました。これを聞いて腹が立ち、口元を殴りつけたところ、  
男は反撃し私の顔を引っ掻きました。そこですぐに彼を引きずり出し役所に訴えたのです。どう  
かお役人様、彼に私の家に何しに来たのかお尋ね下さい。]

【L→L】は例 70 の 1 例のみで、これは 2.2.2 でも述べた客を装う詐欺師と両替商との談話である。

【L→U】では「B3→C」の展開パターンが基本となるが、例 73 においては訴訟人と役人の談話で双方初対面であるため、「名乗り・自己紹介 (B1)」が B3 の前に現れる (例 73, 吐 35S1)。

#### 4. おわりに

本稿では『指南』の依頼場面において、単文の依頼発話と複数の文で構成される依頼談話の二つの

観点から考察を試みた。考察の指標として依頼者、被依頼者の社会的属性と要求行為の負荷度により分類を行ったが、その結果以下の点が明らかになった。

- ・要求行為の負荷度が低い場面では、談話参与者の社会的属性にかかわらず、大半が依頼発話のみの単文で、複数の文から構成される談話は2例のみであった。一方、要求行為の負荷度が高い場面では低い場面に比べ、複数の文で構成されることが多く、談話において明らかに多くの機能的単位が用いられた。
- ・上層階級の人同士の会話（U→U）では（発話、談話双方で）要求行為の負荷度にかかわらず配慮表現を用いるが、下層階級の人同士（L→L）はほとんど用いることはない。
- ・発話、談話双方において、上層階級の人同士の会話（U→U）では被依頼者に対し尊称が頻繁に使用される。また、下層階級から上層階級の人に対する会話（L→U）においては、使用人と主人、訴訟人と役人のように両者に明確な地位の差がある場合、依頼者は「小的」と自称し遜り、被依頼者を「老爺」と呼んで敬意を表す。
- ・依頼発話の配慮を表す表現や談話構成の展開パターンは現代の中国語と共通する点もあるが、依頼発話の「求+H+Vp」や談話の機能的単位「恐縮」等、現代と異なる点も見られた。また「官話問答」の外交官、政府の要人の談話においては、とりわけ顕著に文語体の表現が好まれ、清朝以前からの読書人の言葉遣いを引き継いでいる傾向が見られた。

以上のように依頼表現と談話構成の展開パターンは、談話参与者の社会的属性や要求行為の負荷度と関連し、一定の傾向や統一した形式を見いだすことができる。これは『指南』が当初、日本人向けの中国語の教本であったため、その場に応じた表現を意識的に選択し、学習しやすいよう定型化する必要があったことが要因の一つと考えられる。顔峰・徐麗（2014,174）によれば、『指南』では庶民の使用する口語と官僚のフォーマルな言葉遣いの両方の習得を目指しているという。そのうち官の使用言語では尊辞、謙辞が頻出し、同じく清末の北京官話教本『語言自邇集』と比べても極めて使用頻度が高いと指摘する。その理由として、清朝末期の上層階級の言語を忠実に反映しているだけでなく、中国語の尊辞、謙辞が日本語の尊敬語、謙譲語の体系と近く、学習しやすいため多く導入された可能性を述べている。このことから『指南』の依頼場面においても、登場人物の官民の違いや要求行為の負荷度などの要因から表現が類型化され、日本人の学習効率を高める工夫がなされたと考えられる。

#### 【参考文献】

- 宇佐美まゆみ（2019）「談話研究と言語教育：1960年代から現在までの流れ」『ヨーロッパ日本語教育』23, 194-205.
- 内田慶市・氷野善寛（2016）『官話指南の書誌的研究 付影印・語彙索引』好文出版.
- 王志英（2005）『命令・依頼の表現—日本語・中国語の対照比較研究』勉誠出版.
- 謝オン（2001）「談話レベルからみた「依頼発話」の切り出し方—日本人大学生同士と中国人大学生同士の依頼談話から—」『日本研究教育年報』5, 77-101.
- 顔峰・徐麗（2014）「《官話指南》裏的詞彙和語彙現象」『黒竜江史誌』1,174-175.

- 藤堂明保（1974）「中国語の敬語」『敬語講座第8巻世界の敬語』明治書院 139-162.
- 趙宏杰（2014）「依頼談話に関する日中対照研究 —談話参加者の相互行為を中心に—」東北大学博士論文.
- 氷野善寛（2010）「『官話指南』の多様性—中国語教材から国語教材」『東アジア文化交渉研究』3, 237-259.
- 彭国躍（1995）「『金瓶梅詞話』の「年齢質問」発話行為と敬語表現 —社会言語学的アプローチ—」『言語研究』108, 24-45.
- 李宜真（2008）「依頼の言語行動に関する日中語対照研究 —ポライトネスの観点から—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』3, 117-129.